



避難所に絵カード備えて

高知市で講演会 聴覚障害者が訴え

災害時に聴覚障害のある人をどう支えるかを考える講演会がこのほど、高知市

池の高知県立大学で開かれた。県聴覚障害者協会理事の藤田由紀子さん(68)と土佐市IIが「避難先では『食べ物配ります』など書かれた絵カードを示してほしい」などと訴えた。

災害時の聴覚障害者への対応を紹介する藤田由紀子さん(高知市の県大池キャンパス)

聴覚障害者は、避難のサインが聞こえず逃げ遅れたり、避難所で孤立したりする可能性があり、障害者団体などは目に見える形で情報発信を求めている。

藤田さんは、阪神大震災の避難所では聴覚障害者が配給に気づかない例があったと説明。手話の分からない人もいるなど意思疎通には個人差があるとし、「避難所などで情報を紙に書いて貼る時は絵を付ける工夫が大事」と説明した。

県内では、藤田さんを含め4人の聴覚障害者が防災士の資格を取得。手話を勉強中の人に防災士になるよう勧めているといい、「理解

者を増やすことで、避難所で不安になる人が減るようこれからも活動したい」と話した。

14日の講演は県大生の「UOK手話サークル」が主催し、約40人が参加。企画した3年の森岡ふみさん(22)は「災害時にマイノリティーが淘汰されないよう、避難所運営者や自治体職員も準備を進めてほしい」と話した。(山崎彩加)

災害時の手話 地震

両手のひらを上に
に向けて、左右同
時に前後に
動かす

津波

手のひらを下に向け、
左手を前に、右手を
後ろに開いたまま
前後に動かす

逃げる

両手を握り、腕を
振る。逃げるとき
は、腕を振る。逃
げるときは、腕を
振る。逃げるとき
は、腕を振る。